

# RSウイルス感染症について

乳幼児期の代表的な呼吸器感染症です。

冬季に流行して、乳幼児の半数以上が1歳までに、2歳前にはほぼ100%が感染するといわれます。

## 症状

- 鼻汁・鼻詰まり・咳・目やに・発熱など。熱は3～5日・咳は7～10日間ほど続きます。
- 炎症がひどくなると、細気管支炎を発症し、咳が増えたり、ゼイゼイしたり呼吸困難を生じます。
- 1歳未満、とくに生後6ヶ月以内のお子さんや、先天性の心疾患を有するおさんは重症化しやすいため注意が必要です。



## 治療

- 特効薬がないため、症状に合わせた対症療法を行います。
- 咳に対しては吸入を行い、気管支の炎症をおさえ、痰を出しやすくします。
- 鼻汁・鼻詰まりには吸引を行います。
- 症状に応じて、ステロイド剤の全身投与や入院が必要になる場合もあります。

## お家で気をつけること

- ◆ 咳で苦しそうなときは、背中や胸を優しくトントンしたり、体を起こすように抱っこしてあげてください。
- ◆ 鼻が苦しそうなときは、鼻水を吸い取ってあげましょう。
- ◆ 可能であれば部屋の加湿を工夫しましょう。
- ◆ 水分補給を心がけ、ミルクやおっぱいは少量をこまめに飲ませてあげましょう。
- ◆ 鼻水・咳・目やにで感染します。集団生活への復帰は医師に相談してください。

## こんなときはもう一度診察を・・・

- 咳や鼻詰まりで眠れないとき
- ゼイゼイ・ヒューヒューと音が聞こえ苦しそうなとき
- 胸やお腹をペコペコさせ息をしているとき
- ミルクや母乳の飲みが悪く、おしっこの量も少ないとき
- 顔色が良くない、元気がないとき
- いつもと何か違うとき・・・



おだいじにどうぞ

医療法人 仁寿会 菊池医院